

道有林におけるハマキガ類の発生状況 (1982年)

鈴木重孝 東浦康友

1982年のトドマツを加害するハマキガ類の発生状況は、6月中旬に旭川79林班(1935年植栽)、滝川36林班(1929年植栽)、同41林班(1960年植栽)、林業試験場トドマツ集植所(美唄市:1962年植栽)の4ヵ所で調べた。調査結果は表に示した。

ハマキガ全体の数は昨年より減少している。これはモミアトキハマキ、トドマツメムシガなどの卵越冬のハマキガの個体数が減少したことによる。滝川41林班でもトドマツメムシガの個体数が昨年の半分以上に減ったので、被害はほとんどみられなかった。

コスジオビハマキは今年も低密度で推移しており、個体数に大きな変化はみられない(図-1)。トウヒオオハマキはふつつ若齢林分に多い種で、これまであまり被害報告はなかったが、東神楽でこの種の食害による被害を確認した。トドマツアミメハマキは調査地ではむしろ減少傾向を示しているが、道有林では美深町恩根内、旭川市東旭川で発生をみた。また深川市音江の民有林30ha(12~40年生)にも発生し、このうち10haが激害であった。この種は以前から散発的な発生をくり返しているの、今後も同様の発生はあると思われる。このトドマツアミメハマキと加害の仕方がよく似ているコメツガクチブサガ(スガ科)が昨年に引き続いて今

1981年と1982年のハマキガ類の数(6月調査)

調査地	種名	コス	トウ	タ	モ	ト	ト	ト	そ	ハ
		スジ	ヒ	テ	ミ	ド	ド	ド	の	マ
		ジオ	オ	ス	ミア	ド	ド	ド	他	マ
		ビ	オ	ジ	ト	マ	マ	マ	の	キ
		ハマ	オ	ハマ	キ	ツ	ツ	ツ	ハ	ガ
		キ	ハマ	キ	類	ア	メ	チ	マ	類
			キ			ミ	ム	ビ	キ	合
						メ	シ	ハ		計
						ハマ	ガ	マ		
						キ		キ		
旭川 経営区 79 林班	1981年	0.10	0.88	0.33	2.77	0.42	1.93	0.23	0	6.66
	1982年	0.10	0.63	0.18	0.15	0.33	0.48	0.13	0.08	2.08
滝川 経営区 36 林班	1981年	2.78	0.10	0.10	1.13	0.98	3.20	0.53	0.08	8.90
	1982年	0.71	0.04	0.04	0.32	0.21	0.96	0.50	0	2.78
滝川 経営区 41 林班	1981年	0.30	0.23	0	0.30	3.45	17.05	0.18	0	21.51
	1982年	0.33	0.03	0	0.25	2.48	7.30	0.30	0	10.69
美唄市 トドマツ集植所	1980年	0	0.05	0.15	0.13	0	0	0	0	0.33
	1982年	0.04	0.13	1.02	0	0.04	0	0	0	1.23

注：数値は50cmの枝1本当たりの個体数

年も和寒で発生しているほか，新たに旭川市神楽の国有林でも被害が確認された。しかし調査地での個体数の年変動（図 - 2）をみる限り，むしろ減少傾向を示しているし，また和寒の被害林分でも昨年より個体数が少なくなっているのであまり大きな被害発生はないように思われる。

今年は春から夏にかけて高温で降雨のない日が長く続き，この高温・乾燥の気候は害虫の発育を早め，ハマキガの発育も平年より5～6日は早かったようである。しかしそれが被害につながった例は今のところない。

以上のように，トドマツを加害するハマキガ類の被害はそれほど大きくなかったが，カラマツ害虫の発生はかなり目立った。例えばマイマイガが網走，上川，空知のかなり広い地域で点々と発生しているほか，ハバチ類の発生が各地でみられ，特に胆振地方のカラマツハラアカハバチは被害面積が2500haに倍増した。さらに美瑛町に昨年発生したミスジツマキリエダシャクの被害面積も少しふえるとともに，富良野市で新たに被害が発見された。このミスジツマキリエダシャクによる被害林分ではすでに枯死木も出ているが，現在のところ適切な防除手段がみつかっていない。また1981年の風雪害跡地で発生が心配されたカラマツヤツバキクイは，立木被害こそあまりなかったが，今年は高温・乾燥という好条件にめぐまれ，全道的に年2回の繁殖を行い確実に密度が増加しており，来年度の立木被害が懸念される。

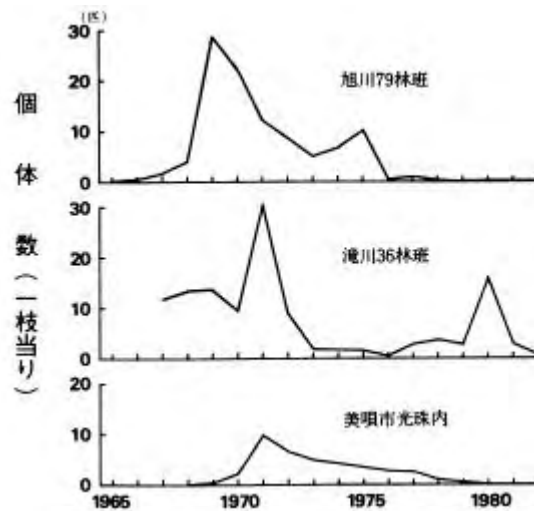


図 - 1 コソジオビハマキの個体数の年変動

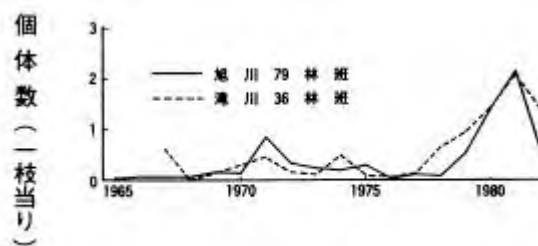


図 - 2 コメツガクチブサガの個体数の年変動

(昆虫野兎鼠科)